

東播工一災害支援プロジェクトT-DAP

防災リーダーの育成 ～『助ける』側へ～

1 実施内容(概要)

(1) 安全で安心な社会づくりに貢献する教育の推進

平成27年4月から『東播工一災害時支援プロジェクト』(T-DAP)を立ち上げ、「防災の知識・技術」と「共助の力」の育成を目指して取り組んだ。主な取り組みを示す。

- ・「災害時支援チーム」(T-DAT)の結成・加古川市社会福祉協議会へのボランティア登録
- ・「高校生防災ジュニアリーダー研修合宿」(主催：兵庫県教育委員会)への参加
- ・「兵庫県・播磨広域合同防災訓練」(主催：兵庫県)への参加
- ・「地域合同防災避難訓練」(主催：本校)の実施

(2) 学校防災体制の充実

本校「防災マニュアル」が機能するよう職員研修を実施するとともに、「地域合同防災避難訓練」では「防災マニュアル」に従って教職員が生徒や地域の方の避難誘導等、災害時の初動対応を中心とした訓練を行った。その後、今後に向け「防災マニュアル」の見直しを進めている。

2 具体的な取組

実施時期	実施内容
6月	<p>1. 「災害時支援チーム」(T-DAT)の結成</p> <p>加古川市社会福祉協議会に災害ボランティア登録し、災害時にすぐに対応できる校内体制を整備した。</p> <p>【登録人数：生徒69人】</p>
6月19日	<p>2. 募金活動「屋久島町口永良部島新岳噴火災害義援金」</p> <p>近隣店舗(コープこうべ神吉店)にて本校生徒会が募金活動を行った。日本赤十字社兵庫県支部を通じて37,885円を寄付した。</p> <p>【参加人数：教職員3人、生徒8人】</p>
7月20～22日	<p>2. 「中学生・高校生防災ジュニアリーダー研修合宿」(主催：県教委)への参加</p> <p>「過去の災害と東日本大震災」「支援の心構え」など6つの講義と3つのワークショップが行われ、災害に対する知識を過去の災害から学ぶとともに、将来の災害において臨機応変に対応できる力を身に着けるため、講義やワークショップ等の研修を通して、防災について学んだ。</p> <p>【参加人数：教職員1人、生徒5人】</p>
8月5～7日	<p>3. 「中学生・高校生防災ジュニアリーダーによる東日本大震災の被災地支援」(主催：兵庫県教育委員会)への参加</p> <p>生徒が被災地(東松島市大曲地区仮設住宅他)を訪問し、被災地の現状を知るとともに、被災地の高校生徒と交流した。伝えること、支援を続けることの大切さを学んだ。【参加人数：生徒2人】</p>



写真-1 店頭募金活動



写真-2 Jrリーダー研修合宿WS



写真-3 東日本大震災被災地支援

8月
30日

4. 「兵庫県・播磨広域合同防災訓練（加古川会場）」
（主催：兵庫県）への参加

生徒と教職員が参加し、煙体験・倒壊家屋からの救出訓練・負傷者搬送訓練・応急処置訓練・初期消火訓練等、地域の防災関係機関と連携した取り組みを行った。

訓練を通して、知識・技術の向上に加え日常及び災害発生時において「自らが何をすべきか」を考える機会となり、生徒たちの取り組みに対する意識を変えることにつながった。

【参加人数：教職員5人、生徒25人】



写真-4 兵庫県・播磨広域
合同防災訓練

10月
30日

5. 「地域合同防災避難訓練」（主催：本校）への参加

「公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構」と「ひょうご安全の日推進県民会議」の助成を受け、地域と連携して実施した。

訓練には、地域の方を含め総勢800人が参加。生徒たちは、各学年に分かれ土のう作りや初期消火、段ボールによる避難所設営、救急法・搬送法に取り組み、地域住民の避難誘導・補助も行った。教職員も、本校「防災マニュアル」に従い避難誘導や初期消火、生徒の安否連絡の対応などの訓練を実施した。

表-1 訓練内容

	内容	指導
1年生	・土のう作り ・初期消火 ・土砂除去	加古川市中央消防署西分署 加古川市消防団西神吉分団 および東神吉分団
2年生	・段ボールによる避難所設営	加古川市危機管理室
3年生	・救急法 (心肺蘇生・包帯法・応急処置) ・搬送法	兵庫大学救命救急サークル
教職員	防災マニュアルに従い訓練	
地域住民	避難訓練 ※生徒たちが避難誘導・補助	



(a) 1年生 土のう作り



(b) 2年生 避難所設営



(c) 3年生 救急法



(d) 地域住民の避難誘導・支援

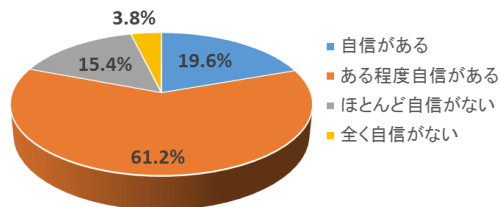
写真-5 地域合同防災避難訓練

訓練後に行った生徒たちへのアンケートでは、約 **80%**の生徒が適切な行動をとって避難する自信を持ち自ら防災活動をしようという回答が得られた。“いざ”というときに生徒たちが助ける側になろうとする意識が感じられた。

生徒や地域に対して本校が取り組もうとする防災教育「助ける側へ」を具体的に示すことができ、地域住民とのスムーズな連携と防災意識の啓発につながった。

【参加人数：全教職員、全校生徒、地域防災機関、地域住民 総勢 800 名】

Q. 今災害が起こったとしても、適切な行動をとって安全に避難する自信がどのくらいありますか？



Q. 災害が起こったとき、自ら防災活動をしようと思えましたか？

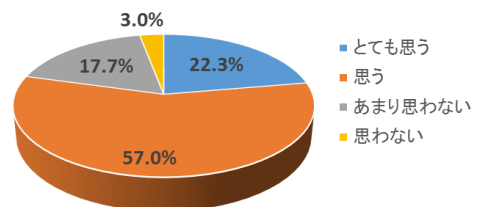


図-1 生徒へのアンケート結果

10月
20～23日

6. 募金活動「台風第18号等大雨災害義援金」

東播工-災害時支援プロジェクト (T-DAP) として、JR 加古川駅と JR 宝殿駅周辺で本校生徒 (T-DAT/生徒会) と県立農業高校とが合同で常総市鬼怒川水害に対する募金活動を実施し協力を呼び掛けた。日本赤十字社兵庫県支部を通じて **93,758** 円を寄付した。この取組みは、7月の「中学生・高校生ジュニアリーダー研修合宿」でのアクションプランを実践したものである。



写真-6 合同募金活動

【参加人数：教職員 6 人、生徒 40 人】

7. 活動報告会への参加

以下の場で活動報告するとともに、他校の活動についても学び刺激を受けた。

11月21日
1月30日
3月18日
(予定)

- ① 平成 27 年度 兵庫県中学生・高校生防災ジュニアリーダー活動報告会
- ② 平成 27 年度 高等学校魅力・特色づくり活動発表会 (ポスターセッションの部)
- ③ 平成 27 年度 高校生ふるさと貢献活動事業活動発表会 (校内)

【参加人数：教職員 3 人、生徒 5 人】

3 取組における成果

『東播工-災害支援プロジェクト』(T-DAP) を立ち上げ、防災教育に重点を置いた様々な取り組みを行い「防災の知識・技術」の向上を図ることができた。そして、卒業後も地域の防災リーダーとして活動できる人材を育成する大きな第一歩を踏み出すことができた。

生徒にとっては、地域との関わりを通して地元を身近に感じることができ、「できる」「頼りにされている」という自信が感じられ (図-1)、自己肯定感を高めることにもつながった。

さらには、生徒や地域に対して本校が取り組もうとする防災教育「助ける側へ」を具体的に示すことができ、地域住民とのスムーズな連携 (顔の見える関係づくり) と防災意識の啓発につながった。

4 最後に

今年度の取組みを継続・発展させていくことが課題である。2016年度は「防災教育チャレンジプラン」に応募し、①地域連携型組織的防災活動、②災害時支援チーム (T-DAT) の派遣、③工業高校の特色を生かした「ものづくり防災活動」を3本柱として取り組む。全国の防災教育先進校と情報交換する場を持ち、地域貢献できる活動を目指す。そして、生徒たちがより主体的に取り組み、災害時に活躍する防災リーダーを地元に輩出し、中長期的視野に立って地域の防災力向上につなげていきたい。

この取組みは、多くの方のご協力とご指導を得て実現できたものである。関係各位に厚く御礼申し上げます。